

先進地紹介

城下町高田の歴史・文化をいかした『街の再生』

茨城町都市建設部都市整備課 主事 岩瀬 寛 幸

令和5年10月26日に、令和5年度第1回まちづくり拝見研修会が新潟県上越市で開催され、講演や現地視察などが行われました。

■『街なか居住』の促進と『街なか回遊観光』による経済基盤の強化

上越市の高田地区は、高田城の城下町として栄え、間口が狭く奥行きが深い「町家」の街並みが現存する地区です。

また、「この下に高田あり」と言われるほどの豪雪地帯であり、個人宅の一部を屋根付き歩道として利用し、冬季の生活道路として活用していた「雁木」も本地区のシンボルです。



雁木が建ち並ぶ風景

そのような高田地区ですが、歴史的市街地としての特性がある一方で、現代的な生活におけるマイナス要因として評価され、人口の流出が増加したこと、また、城下町特有の幅員4m未満の狭隘道路が多いことから、空き家や空き店舗の増加が課題でした。

上記を踏まえ、市では、人口減少社会において持続的に発展していくためには、地域の特性をいかしつつ、コンパクトシティの考えに基づいたまちづくりを推進することが重要と考え、城下町高田の歴史・文化をいかした街の再生に取り組みました。

平成28年8月には、城下町の町割りに由来する土地利用上の課題を解消し、「街なか居住」を促進するとともに、有形・無形の歴史・文化遺産の活用を通じた「街なか回遊観光」による経済基盤の強化や市内外

との交流を促進することを目的とした地域再生計画を策定。

また、地域再生計画の取組の一つである「経済基盤の強化」に向けて、各拠点エリアの役割や整備構想を整理するとともに、市所有の歴史的建造物の活用などを具体化した市独自の計画「城下町高田の歴史・文化をいかした『街の再生』事業推進計画」を策定したことが、事業達成の重要なポイントとなったと説明がありました。

■現地視察：旧今井染物屋

旧今井染物屋は江戸時代末期に建てられた、市内に現存する町屋の中でも最も古く、最大級の町屋です。令和元年8月には上越市文化財に指定されました。市では、貴重な市文化財である本施設の保存と、約130年続いてきた高田の風土産業「バテンレース」を後世に残していくため、バテンレースを基軸とした常設工房を設置するとともに、地域文化の継承と発信の拠点として、令和3年4月に開館しました。



旧今井染物の内観

■おわりに

今回の研修会を通じて、歴史的市街地としての特性を活かしたまちづくりの実例を知ることができ、大変勉強になりました。

春の時期には、高田城址公園にて約4,000本の桜が咲き誇り、日没には約3,000個のぼんぼりが夜桜を照らすその美しさから「日本三大夜桜」の一つに数えられているとのことでした。ご興味のある方はぜひ上越市を訪れてみてください。

